

政務活動一覽

議員名: 福浜 隆宏

年月日	活動先			政務活動の内容	関連領収書 番号
	住所	活動先の名称	対応者		
4月19日	鳥取市北園 2-223	福浜たかひろ事務所		内外情勢調査会(オンライン)	0402
4月20日	鳥取市今町2-153	ホテルニューオータニ鳥取		日本海政経懇話会	0415
4月21~23日	鈴鹿市稲生 7992	鈴鹿サーキット		鳥取県選手が8耐予選に参戦	0403~0406
4月25・26日	西宮市和上町 1-31	GEOソリューションズ	藤井達司社長	ドローン測量視察	0407~0410
4月29日	日南町霞 785	日南町総合文化センター	元日南町長矢田治美氏	日南町の芝生化検討会 出席	0413 0414
5月16日	日南町下阿昆線 478	日南町ゆきんこ村ほか	日南町中村英明町長	ロボット芝刈機貸与式 出席	0501
5月12日	鳥取市北園 2-223	福浜たかひろ事務所		内外情勢調査会(オンライン)	0402
6月20日	鳥取市北園 2-223	福浜たかひろ事務所	経団連 十倉雅和会長	内外情勢調査会(オンライン)	0402
6月23日	鳥取市永楽温泉403	ホテルモナーク鳥取		日本海政経懇話会	0415
6月27日	西宮市和上町 1-31	GEOソリューションズ	藤井達司社長	セブ島アートP 協賛依頼	0601 0603
7月3日	日南町霞 785	日南町総合文化センター	元日南町長矢田治美氏	日南町の芝生化 第3回会議	0702
8月10日	日南町霞 785	日南町総合文化センター	元日南町長矢田治美氏	日南町の芝生化 第4回会議	0809
8月16日	津山市山下30-1	ザ・シロヤマテラス別邸	小林義明会長	鳥取岡山県境議連総会等	0810
8月30・31日	京丹後市丹後町間人	京丹後市内ジオパーク	ジオガイド	山陰海岸ジオパーク議連 視察	0805 0806
9月14日	日南町霞 785	日南町総合文化センター	元日南町長矢田治美氏	日南町の芝生化 第5回会議	0908
9月4~11日	フィリピン・セブ島	児童養護施設ほか	ラブラブ市長チャン氏	セブ島アートP 同行視察	0808 ほか
9月17日	鳥取市栄町 401	カフェソースバンケット		ハワイ日系2世題材映画対談	0907
10月5日	鳥取市今町2-153	ホテルニューオータニ鳥取	笹川財団	内外情勢調査会 講演会	0402
10月7~10日	鹿児島霧島市牧園	全共会場		鹿児島全共視察	1001ほか
10月28日	鳥取市北園2-223	福浜たかひろ事務所		内外情勢調査会(オンライン)	0402
11月11日	鳥取市北園2-223	福浜たかひろ事務所	やまと理事長田上佑輔氏	内外情勢調査会(オンライン)	0402
11月28日	鳥取市北園2-223	福浜たかひろ事務所		内外情勢調査会(オンライン)	0402
2月17日	鳥取市北園2-223	福浜たかひろ事務所		内外情勢調査会(オンライン)	0402
2月21日	鳥取市永楽温泉403	ホテルモナーク鳥取	慶大大学院教授	日本海政経懇話会	0415

・交通費(JR等運賃、タクシー代、駐車場代)、宿泊費、会議等への参加費

及び 会議の開催経費(会場代、講師謝金等)に政務活動費を充当する場合に記載すること。

・県外及び国外での政務活動については、別途「活動報告(県外・国外)」を提出すること。

活動報告(県外)

議員名: 福浜 隆宏

活動事項	全日本選手権(2輪8時間耐久レース予選会) 鳥取県ライダー参戦 視察
活動年月日	令和4年 4月21日(木)~23日(金)
場所	三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット
活動の相手方	鳥取県ライダー ■■■■■ 氏 チーム監督 ■■■■■ 氏
活動の目的	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥取市気高町在住で国際A級ライダーの■■■■■が、真夏の2輪の祭典「8耐」出場を目指し全日本選手権に参戦。 ○50歳を超え、かつモータースポーツ不毛の地である本県から高い壁に挑戦を続ける姿は、同世代はもちろん、次世代の若者たちに『諦めない限り不可能はない』という勇気と希望をもたらすに違いない。 ○その挑戦を間近で体感し、今後「教育現場との繋がり」の道を探るのと合わせて、風光明媚な本県の強みを生かし「ツーリング観光」の可能性を伸ばす糸口とする。
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○今回、■■■■■選手は名古屋のチームの一員として参戦。2日間にわたる予選会をピットクルーに帯同し動き回った。 ○同じくノービス参戦である「チーム長野」の関係者とも懇談。「ツーリング観光」の先進地である長野県での行政・民間の取り組み等に関して聴き取りを行った。
活動の結果等	<ul style="list-style-type: none"> ○■■■■■選手は同チーム3選手中、トップタイムを叩き出したが、それでも予選突破は叶わなかった。本業■■■■■収入の大半をマシン購入に当て、経費面でレース使用の新タイヤを装着しての練習がままならず、事実上の『ぶっつけ』となったことが響いたようだった。 ○「チーム長野」は、資金もメカニックもライダー3名も全て長野。金銭面での行政支援はゼロだが、県主催イベント等で寄付金コーナーを設置するなど広報支援が手厚く、8耐本番では長野県職員がブースを設置し観光PRをしているとのこと。 ○本県で「純・チーム鳥取結成」には相当ハードルが高いが、『ハヤブサ』の聖地がある本県だけに、サイクリング同様、バイクツーリングにも力点を置けば、交流人口拡大に繋がると考える。 ○後日、「チーム名古屋」は、その後の予選会で見事に8耐出場権を獲得。その8耐本番で■■■■■選手は華のスタートライダーに抜擢され、総合32位の好成績で完走を果たした。 ○今後、教育現場との「橋渡し」を行い、キャリア教育の一環として■■■■■選手の『生き様』を子どもたちに伝える場を構築していきたい。
関連領収書番号	0403~0406

活動報告(県外)

議員名: 福浜 隆宏

活動事項	ドローンを活用した3次元測量による地図作成企業を視察
活動年月日	令和4年 4月25日(月)~26日(火)
場所	兵庫県西宮市和上町 1-31
活動の相手方	GEO ソリューションズ 代表取締役 藤井 達司氏
活動の目的	<ul style="list-style-type: none"> ○国内でもいち早くドローンを使った公共測量を手がけ、3次元地図の作成で高評価を得ている企業を視察。 ○近年は、ドローンを使った点検業務にも乗り出すなど、最先端の測量技術に触れることで、本県での公共測量のレベルアップに寄与するものとする。
活動の内容	○藤井社長ご本人より、会社概要と自社の強み、とりわけドローンの活用法について2時間あまり詳細なレクを受けた後、昼食を取りながら本県との関わりについても話を伺った。
活動の結果等	<ul style="list-style-type: none"> ○この企業では西宮市に本社がある関係で、西宮市の公共測量で実績を積み上げながら技術を高め、県外自治体からのオファーも年々増え、このたびは鳥取市からの声かけで、鳥取砂丘の3次元モデル測量も行ったということ。 ○中山間地が多い本県にとりドローンの活用は、測量や点検業務のほかにも、防災面や物資輸送など生活支援面でも、今後需要が増える可能性がある。 ○ドローンといえば、中国製が世界を席巻している。しかしこの会社では大型カメラなど重量がある機材を乗せるには中国製では安定性に難点があるため、特注ドローンを活用しているのだが、実はそのドローンを製作しているのが鳥取市内にある事業所だという。従って廃校になった旧校舎や校庭等を使った実験施設等を県東部で進める必要があるとの意識を強く感じた。 ○藤井社長も同じ思いを持っており、本県との繋がりをさらに強め、ドローン活用に長けた本県の新たな強み構築と引いては県民の安全・安心に寄与する道を創るべきと考える。今後、こうした提言等を県側に働きかけていきたい。
関連領収書番号	0407~0410

活動報告(県外)

議員名: 福浜 隆宏

活動事項	フィリピン・セブ島・アートプロジェクト協賛依頼
活動年月日	令和4年6月27日(月)
場所	兵庫県西宮市和上町1-31
活動の相手方	GEOソリューションズ 代表取締役 藤井 達司氏
活動の目的	<p>○鳥取市在住で世界的に活躍するエアブラシアーティスト YASU こと ████████ 氏が、フィリピン・セブ島のストリートチルドレンを対象に現地でアート教室を開催し、仕上げた作品を観光客向けに販売するというプロジェクトを考案。</p> <p>○様々な境遇にある子どもたちが、自らの感性でお金を稼ぐという新たな道を見いだすことで、自尊感情を高め、将来への夢を抱けるきっかけを創るのがプロジェクトの趣旨で、協賛依頼に伺った。</p>
活動の内容	<p>○YASU さんが直接、藤井社長にプロジェクトの狙いについて説明。SDGsの目標のひとつでもある「飢餓・貧困の解消」や「教育」の必要性、子どもの可能性を広げるために大人や社会が成すべき点等について議論が深まった。</p>
活動の結果等	<p>○前回、藤井社長を訪ねた折に、西宮市内の児童養護施設等に熱心に尽力されている話を伺っていたので、子どもたちに対する視点が共通していると受け止めたので YASU さんと引き合わせた。</p> <p>○藤井社長は、海外の子どもたちより、まずは地元。『7人に1人が貧困世帯』と言われる日本の現状を少しでも変えていくことに傾注したいということで、結果的には同 P に対する協賛を得ることは出来なかった。</p> <p>○しかし、子どもたちの置かれている環境や社会を「子どもファースト」に変えていきたいという思いと行動はお互いに共通しており、学校教育だけでなく、地域や社会教育により子どもたちの可能性を伸ばすという思いは、今回の出会いでさらに高まったように感じた。</p> <p>○藤井社長は大の甲虫愛好家で、暇さえあれば奄美大島など日本国中を歩き回り、撮影した映像を元に「WEB 昆虫図鑑」を発信している程。YASU さんも、作品モチーフの多くが「生き物」であることから、自然環境保全の意識を次世代に浸透させる必要性についての議論も深まった。</p> <p>○自然が豊かな鳥取こそ、生き物を通した環境教育を具現化できる適地であり、『体験型観光』による交流人口拡大への手段としても生き物との出会いを通した環境教育の熟成についても、今後積極的にトライしてみたい。</p>
関連領収書番号	0601 0603

プロジェクト名 『アートスクール ink inセブ』

このプロジェクトは現在厳しい環境に暮らしている子供たちへ向けたアートを活用した支援プロジェクトです。鳥取で YASU の運営するアートスクール ink では様々な子供たちがアートを楽しむと同時に、スキルを学び、そして大人も出品するコンクールなどでもたくさんの子供たちが受賞を受けてきました。その結果からアートには年齢も性別も関係なく様々なチャンスがあると言えます。今回 YASU はその経験やスキルを使いセブ島でストリートチルドレンをはじめとする厳しい環境に身を寄せている子供たちに向けてアートスクールを開校することとなりました。

現在ターゲットとなる子供たちは観光客からチップを恵んでもらったり、物を盗んだり食べ物がなく命を絶つていく子供たちが少なくありません。

そこで、別紙にて説明している流れを用いて、子供たちが自ら学び、その結果収入に繋げていくというプロジェクトです。延いては、そこから世界に通用するアーティストが生まれることを願っていますがすぐには難しく、まずはこのプロジェクトによって、子供たちが継続してアート制作を行えることが重要だと考えています。そして、このプロジェクトを継続していくためには我々だけの力では難しいのが現状です。

もし、このプロジェクトにご賛同いただけるのであれば幸いです。

支援メニューとしては以下の通りです。ご検討のほどよろしく願いいたします。

1. 800,000 円 YASU のアート作品 (50%が支援に使われます)
2. 400,000 円 YASU のアート作品 (50%が支援に使われます)
3. 150,000 円バナー (小)常設展示 (アートスクール、ギャラリーいずれか)
4. 300,000 円バナー (小) 常設展示 (アートスクール、ギャラリーどちらも)
5. 300,000 円バナー (大) 常設展示(アートスクール、ギャラリーいずれか)
6. 600,000 円バナー (大) 常設展示 (アートスクール、ギャラリーどちらも)
7. 30,000 円～ 現地子供の作品購入
8. 20,000 円 現地子供の作品購入

これらを自由に組み合わせることが可能です。

御社のメリットとして大きく2つ考えられます。

○写真、映像等を使用し、企業のイメージアップに繋がられる。

○世界規模での社会貢献が出来る。

これら以外にも、既に現地メディアを含め、様々なメディアがすでに興味を持たれているのでそれらのタイミングにはなりますが、スポンサーとして壁等に設置される御社の企業ロゴの各メディアへの露出も期待されます。

そして、何よりも御社のご支援により現地の子供たちの生活改善が行われるということです。

子供たちの中には、空腹のまま明日の食べ物を気にしながら眠りにつく子供も少なくありません。

そんな子供たちにとって少しでも明るい、希望の持てる未来に向けてのチャンスになるのでは？と僕たちは思っています。

皆様のご協力が多ければ多いほど沢山の子供たちにチャンスを与えることが出来ます。

どうか、このプロジェクトにご支援、ご協力よろしく願いいたします。

活動報告(県外)

議員名： 福浜 隆宏

活動事項	鳥取岡山県境議連総会 意見交換会
活動年月日	令和4年 8月16日
場所	岡山県津山市山下30-1 ザ・シロヤマテラス別邸
活動の相手方	同県境議連会長 小林義明県議 両県執行部など
活動の目的	○県境を接する地域を地盤とする両県の県議等が集い、共通の課題や解決への糸口を一緒に模索する中で、中山間地域で暮らす県民の安全・安心・賑わい創出等につながる施策を県へ提言することが主な狙い。
活動の内容	○総会では、昨年度決算と今年度予算、役員改選について全て承認。 ○意見交換では、「観光連携」と「森林環境譲与税の用途」の2点に絞り、議論を行った。
活動の結果等	○「観光連携」では、瀬戸内側が先行している「サイクルツーリズム」に関して、両県の県境部と日本海側での振興の必要性が議論された。 ○このうち、鳥取市-岡山市を結ぶルート設定については、本県側からみると鳥取市佐治町の辰巳峠を越えて、岡山鏡野縦断ルートに繋げている。中国地方屈指の急勾配がサイクリストの挑戦意欲を掻き立てるルート設定の一方、沿線には商店が皆無の状態であり、ルート設定を不安視する声が多く上がった。 ○個人の見解としては、辰巳峠ルートは「上級者向け」とし、「中・上級者向け」として、国道53号沿いのルート設定が合わせて出来ないものか？前向きに検討して頂きたいと考える。 ○「森林環境譲与税の用途」では、制度導入にあたり大都市部の理解を得るために、配分割合に「総人口」を入れざるを得なかった事情はあるものの、森林がない横浜市等に莫大な税金が落ちる現行の仕組みはどう考えても不自然で、何のための新税か？原点に立ち返り、配分割合の見直しを強く国に申し入れする必要がある。 ○シカによる林地・農地被害は深刻さを増しており、ゾーン分けによる共存や中山間地集落の維持を模索する上でも、今後の森林の在り方は、国策として方針を定め、それに基づく予算配分となるよう粘り強く求めていきたい。
関連領収書番号	0810

活動報告(県外)

議員名: 福浜 隆宏

活動事項	山陰海岸ジオパーク推進三府県議員の会 総会と現地視察
活動年月日	令和4年 8月30日～31日(午前まで)
場所	京都府京丹後市峰山町杉谷943ほか
活動の相手方	現地ジオガイド ████████氏ほか
活動の目的	<p>○山陰海岸ジオパークの東端に位置する京丹後市の景勝地等を視察し、エリア全域での連携強化を図る。</p> <p>○合わせてタンゴ鉄道が実践されている活性化策についてレクチャーを受け、本県での同展開への検討材料とする。</p>
活動の内容	<p>○「同議員の会」総会では、昨年度決算と今年度予算を承認した。</p> <p>○竹野漁港に移動し、小型漁船を観光用に改良した船で、洞窟探検。</p> <p>○その後、海岸を望む高台にある古墳群を視察。</p> <p>○2日目はタンゴ鉄道の様々な活性化策についてレクチャーを受けた。 (午後から鳥取で別件があり、2日目の午前まで)</p>
活動の結果等	<p>○竹野漁港から出港する観光船は、4人乗れば一杯という小型船。波が高いと出港困難に思えたが幸いの風。小型船の強みを生かし洞窟の内部まで侵入。竹野版『青の洞窟』を楽しむことが出来た。天候に左右されやすいハンディーがあるものの、浦富遊覧のような中型船では味わえない海との一体感が大きなメリットだと感じた。</p> <p>○竹野海岸を一望する高台にある大成古墳群は、古墳時代後期、6～7世紀の横穴式石室が13基も群集。実は、古墳数の都道府県ランキングは、1位が兵庫1万8千余でトップ。2位は、3位の京都を僅かに抑えて鳥取県(1万3千余)。古代に思いをはせてジオ観光という視点も、面白い切り口になる可能性がある。</p> <p>○タンゴ鉄道関連の取り組みで注目したのが、「予約型乗合タクシー」。月額5000円で、家族一人あたり500円支払えば、全員乗り放題でオンデマンド型。バス事業を展開する「ウィラー」が予約システム等を。タクシー運行は、地元のタクシー会社が担う仕組み。</p> <p>○エリア1000人規模居住していれば採算が取れるとの試算の上で実施されていて、導入当初で採算は赤字だと説明があったが、地域交通のドライバーの担い手不足が課題の中、注目される動きであり、注視しながら本県の導入の可能性を考えていきたい。</p>
関連領収書番号	0805 0806

活動報告(国外)

議員名: 福浜 隆宏

活動事項	フィリピン・セブ島ストリートチルドレン支援アート P 同行視察
活動年月日	令和4年9月4日～11日
場所	セブ島ラプラブ市 マンダウエ市 ボホール島ほか
活動の相手方	ラプラブ市 ユナルド・チャン市長ほか
活動の目的	<p>○セブ島のストリートチルドレンを対象にアート教室を開催。観光客の土産品として販売し、子どもたちが自らの感性でお金を稼ぐ仕組みを構築したいと鳥取市在住エブラシアアーティスト YASU さんが P を考案した。</p> <p>○日本の子どもたちも『7人にひとりが貧困』と言われる中、現地同行により、子どもたちが本来持っている力を引き出せるのかをつぶさに確認し、本県の地域教育の場で展開。将来は鳥取から全国への波及が狙い。</p>
活動の内容	<p>○5日(現地初日)はラプラブ市の児童養護施設を会場に「アート教室1」</p> <p>○6日(2日目)はマンダウエ市の児童養護施設を会場に「アート教室2」</p> <p>○7日(3日目)はボホール島に移動。地元の小学校で「アート教室3」</p> <p>○8日(4日目)はラプラブ市内に戻り、土産物店を回り作品販売を打診</p> <p>○9日(5日目)はラプラブ市のチャン市長を表敬後、森林を開墾した手作りリゾート地へ。</p> <p>○10日(6日目)は再びラプラブ市内に戻り「アート教室4」。深夜に空港へ</p> <p>○11日(7日目)インチョン(韓国)経由で帰国(関空)。</p>
活動の結果等	<p>○セブ島はじめフィリピンにはゴミの焼却場や埋立地がなく、都市部には必ずゴミ山が存在。ストリートチルドレンは小学生の年代になると、親の手伝いでゴミ山から有価物を探し、週1回来訪するリサイクル業者に売る。フィリピンでは幼稚園のみ義務教育。ストリートチルドレンの中には小学校に通う子もいるが、「親を助けたい」との理由で、就学率は下がる。</p> <p>○そんな子どもたちを対象にしたアート教室。当初は思い思いに描くのみだったが、「どうしたら売れる作品になると思う?」という YASU さんの問いかけに、自分なりの答えを探しながら再びキャンパスに向かった。その姿は、毎回真剣そのものだった。</p> <p>○小学校での特別授業を除くと、3回の教室で150人の子どもたちが参加。YASU さんの見立てで「売れる」レベルの作品が15点ほど誕生。その子たちを連れてデパートに行き、日本円で2000円を上限にショッピング。破れた靴を履き続けていた女の子は新品のシューズを買い、男の子はTシャツが2枚しかないからと4枚購入。ある女の子は薬局へ。「お母さんが病気だから薬を買う」など様々だったが、自己肯定感を抱いた様子だった。</p> <p>○残念ながらセブ島は「コロナ禍」で外国人観光客が100分の1以下に激減。あちこち土産物店を回ったが、どこも作品を置く余力がないと難色。</p> <p>○そこで「市長に会おう」と、当初予定になかった提案をして、翌日会える事になった。フィリピンにも SDGs の波が押し寄せ、ゴミ山を埋め立てる計画が進行中。となれば、ストリートチルドレンの資金源が途絶えかねないという問題に直面している事から「市長、このプロジェクトはセブ島だけではない。フィリピン全土の子どもたちが自信を持つきっかけになる。市長の力で作品を展示販売出来る場所を創ってほしい。セブからフィリピンを変えましょう」と要望したところ「全面的に賛同する!」との回答を得た。</p> <p>○今回の視察で最も印象に残ったのは、作品が売れなかった子がキャンパスを洗っていたこと。「なぜ?」と問いかけると「今回はチャンスを生かせず悔しい。だからもう一度描きたい。こんな機会を与えてくれて本当にありがとう!」。思わず胸が熱くなってしまった。鳥取でもやろう。環境さえ大人が用意すれば、子どもたちは勝手に伸びていく。必ず!!</p>
関連領収書番号	0808 0905 0906 1008 1009 1010

活動報告(県外)

議員名: 福浜 隆宏

活動事項	全国和牛能力共進会・鹿児島大会(鹿児島全共)視察
活動年月日	令和4年 10月7日～10日
場所	鹿児島県霧島市牧園町 特設会場
活動の相手方	■■■■氏はじめ本県肥育農家と倉吉農業高校の生徒
活動の目的	○5年前の「宮城全共」では、他を圧倒する鹿児島県や宮崎県の大応援団を目の当たりにしただけに、『鳥取県も負けられん!』と畜産振興議連の一員として、郷土勢の躍進とりわけ「肉質連続日本一」の称号を獲得する一助となるべく現地に応援に向かった。
活動の内容	○審査初日の8日朝、鳥取を出発しても鹿児島行きの新幹線が全て満席だったため、7日夜に博多で前泊し、8日早朝に鹿児島へ。 ○それでも会場行きシャトルバスは長蛇の列で、ようやく昼前に到着。鳥取県牛舎を訪ねて肥育農家や倉吉農業高校の生徒を激励した後、審査会場に入り、『声なき(コロナ禍)大応援』を送った。
活動の結果等	○「連続日本一が獲れるかは微妙だが、上位は間違いナシ」と言われていた「肉質の部」で全国11位と想定外の結果。改めて「白鳳85の3」がいかに希有な存在であることと後継牛育成の困難さが浮き彫りになった。 ○しかし「肉牛の部」では、出荷頭数がケタ違いに多い鹿児島や宮崎と並び、鳥取県の代表牛が次々に「第1列」に選ばれる様子は、「宮城全共」では見られなかった光景であり、県民の一人として大いに喜びと誇りを感じた。生産・肥育農家の方々の並々ならぬご苦労と熱意の賜物であり、心から敬意と感謝を申し上げたい。 ○一方で、「鹿児島全共」で躍進したのが北海道。4席～5席が中心だった鳥取県を上回り、鹿児島・宮崎に次ぐ3席に入る牛が続出。北海道といえば酪農のイメージが強かったが、「2027北海道全共」に向けて、畜産にも相当本腰を入れて取り組んでいることが伺え、脅威にすら感じた。 ○畜産試験場の技術面と生産・肥育農家の熱意の両輪が噛み合っこそ初めて「良牛」の育成に繋がる。飼料高騰の一方で牛肉の値段が頭打ちの厳しい状況の中、生産現場の熱意が持続出来るよう物心両面での行政支援が今こそ必要であると考えます。
関連領収書番号	1001 1002 1005 1006 1015